

さつまいも基腐病対策として、生産者の注意すること

昨年に引き続き、大隅地域管内のさつまいも栽培ほ場において、基腐病の発生が散見され始めました。

今後の発生拡大を防止するため、定期的なほ場の見回りとともに早期の発病株の除去、薬剤散布および排水対策を実施しましょう。

令和2年産の対策

1 栽培ほ場

- ① 発病株は大量の胞子を形成し、周辺の株へ伝染するため、早急に抜き取り、ほ場外へ持ち出しましょう。
- ② 防除薬剤は、発病した株への効果はありませんが、周辺株への感染拡大を防ぐために「Zボルドー」、「ジーファイン水和剤」を散布しましょう。
- ③ うね間に水が溜まると、発病が拡大するおそれがあるので、降雨後のほ場見回りにより、ほ場の排水を確保しましょう。



葉の変色としおれ



枯死前の株



地際部の黒変



健全株の中の発病株

図 本ほの生育初期における発病株の状況

令和3年産に向けた取組

2 育苗床（育苗ハウス）

育苗床のさつまいも残渣の除去、消毒など早い時期（地温の高い時期）から取り組みましょう。

3 種いも

令和3年産の基腐病対策として、病気に罹っていない種いもの確保（購入、自家生産）に努めましょう。

※病気に罹っていない種いもの伏せ込み、苗の植え付けが大切です。